

茨城県水産試験場  
平成28年度評価書

平成29年11月

茨城県水産試験場

評価委員会

## 【様式6】

### □総合評価

評価： A(3.3)	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取組みを実施していると判断できる。
<p>試験研究課題である「在来魚種の産卵場造成等新たな増殖技術の開発と普及」について、多様なステークホルダーとの連携により効果を実証し、順調に現場に普及している。広報や情報提供に関しては、ホームページの充実、SNSの展開、地魚レシピ集・主要魚種21のとりまとめ等、水産試験場の活動成果等を広く県民に周知する取組を進めている。また、全体マネジメントでは、漁業調査船いばらき丸を自主整備し、修繕ドック経費を半減させたことは業務の効率化に資するものであり、さらに内部人材育成では、場内研究者の気軽な情報交換を促進するプチゼミを行い、相互に人材育成を行う新たな取組を進めるなど、評価できる。なお、広報、マネジメント、人材育成の項目は人に関するものであり、これらの取組の次年度以降の取組方針があるとよい。</p> <p>一方で、試験研究課題である「イワシ・サバ類の新規加入予測精度向上研究」においては、他県水産試験場や国立試験研究機関などとの連携を行い、調査点を広域化し、主要稚魚群と黒潮との位置関係から加入量を推定できるものか、過去のデータを使って検証することも必要であると思われる。</p>	

### □項目別評価

#### i) 県民に対して提供する業務

##### 1) 試験研究

評価： A

<p>①在来魚種の産卵場造成等新たな増殖技術の開発と普及 従来法に比して極めて効率的な技術の開発に成功し、地域の漁業者と連携してモデルとなるような事業を進め、一定の効果も確認している。産卵場造成実施団体が目標を上回っており、現場のニーズを適切に捉えた研究成果であったと考えられる。今後、他県への広がりを期待する。 ただし、これにより天然アユの大幅な増が担保できているかについては不確実な点もあるので、今後の更なる取り組み・検証が求められる。 また、この技術を活用した事業展開や、例えば新規の河川工事において環境対策として活用できるか等検討してもよいと思われる。</p> <p>②イワシ・サバ類の新規加入予測精度向上研究 本県においてイワシ・サバは重要な資源であり、その資源動向は、まき網漁業個別経営のみならず、地域漁業や水産加工業へも影響するものである。計画に対し、まだ十分な成果は得られていないようであるが、初期成長や摂餌生態に関する詳細な調査を実施し、水温や海流との関係も把握したうえで、新規加入予測の精度向上に向けた道筋を示しつつある点は評価できる。県の立地性を考慮した積極的な課題設定であり、国、隣県等ともよく連携し、成果を上げてほしい。 一方で、既往の知見と本研究の成果を整理した方が分かりやすい。また、魚群の「生息水温が高い」かどうかが何で決まるのかを議論していないので、加入量推定への考え方が不明な点がある。</p>
---

##### 2) 相談業務

評価： A

相談件数の数値目標を超える実績があり、積極的に対応していること、また、寄せられた相談から現場の課題や県民ニーズを抽出し、対応できる体制を機動的に構築したり、開発課題の設定や内部人材育成に活かしていることを評価する。
---

##### 3) 成果の伝達普及・指導業務

評価： A

フェイスブックの導入によって速報性を高めた点や漁海況速報の余白利用、浜プランによる「海の輝き」の取組、酸素情報の発信などの新たな取組を評価する。時代の進みが早い現在では、とりえず発信し、反応を見ながら軌道修正していくアプローチが適当である。また、予測できない海況に対して即時対応したことも特記できる。 今後、指導した結果(成果)の伝達・発信も取り組んでいただきたい。
--

##### 4) 漁業無線業務

評価： A

24時間体制で操業漁船の安全確保・漁業支援に当たっており、適切に対応していると評価する。
--

##### 5) 外部人材育成

評価： A

大学生に研究指導等を行ったり、共同研究を通じて大学院生の教育にまで貢献している点や、地元海洋高校等の教育に協力し、地域の水産に関わる人材の育成に貢献している点は高く評価できる。 「親子で学ぶ水産・海洋教室」についても、PDCAサイクルを利用して参加者を増加させた取り組みが評価できるが、参加数は募集を下回っていたため、適切な日程設定と効果的な事業PRが必要である。
---

6) 知的財産の取得・活用

評価： A

適切に対応していると評価するが、職員の知的財産に関する知識向上は必須であり、生食用シラス製造技術以外の取組についても知的財産等(秘密保持対策を含む)としての活用を期待する。

7) 広報・普及啓発

評価： AA

試験研究主体の中であって、広く県民向けに「地魚レシピ集」を取りまとめたことや、「生態と資源・主要魚種21種」を作成したことは、試験研究の成果を適切に発信していると大いに評価できる。また、地魚レシピ集がニュースで報道されたことは特筆すべき成果である。

今後のレシピの追加方法や活用方法等、これからの取組についての考え方を示すとともに、各種イベントについては参加だけでなく質の面からも充実をはかってほしい。

ii) 業務の質的向上、効率化のために実施する方策

1) 全体マネジメント

評価： AA

いばらき丸の修繕を可能な限り自主整備により実施し1,000万円以上の経費を削減したことは、予算の節約のみならず、乗組員の技量向上による新規調査の可能性向上や、海上での不測の事態に対するリスク耐性を高めることにもつながるので、高く評価する。全国の試験船のモデルになると思われる。

今後の修繕方法をどうするか、職員の負担はどうか、現行の職員体制だからできたことなのか、また、自主修繕のデメリットはないか等についても、示すとともに、経費削減の努力を継続することが大事である。

2) 県民ニーズの把握

評価： A

数値目標を達成しており、適切に対応していると評価する。  
引き続き、生産者だけでなく、一般消費者ニーズの把握に期待する。

3) 他機関との連携

評価： A

他機関との共同研究や連携もある他、特にアユの産卵場所造成技術の開発においては、国交省や市町村、漁協・友釣り同好会など多様なステークホルダーと連携しており、数値目標通りあるいはそれを超える取組を実施しているものと評価する。

さらなる発展に努力いただきたい。

4) 外部資金の獲得方針

評価： A

多くの外部資金を獲得しており、目標を達成しているものと評価する。

5) 内部人材育成

評価： AA

主として疑問を抱える側がプレゼンターとなる「プチゼミ」は大変ユニークな取り組みである。研究員数が減少傾向にある中で、プチゼミや場内ゼミを強化し、研究しやすい環境の整備に努めている点は高く評価できる。他の試験研究機関の参考になると思われる。

今後の進展に期待するとともに、次回はプチゼミをどう評価するか具体的な内容を示していただきたい。

【様式7】整理表(項目別評価)

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		水産試験場 評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
i) 県民に対して提供する業務	1) 試験研究	<p>A ○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p>1 在来魚種の産卵場造成等新たな増殖技術の開発と普及 ～アユ産卵場造成技術の開発と普及～</p> <p>・第1期中期運営計画で開発したアユ産卵場造成技術(重機の円運動による瀬の河床耕耘)について、平成28年度改良(平坦化した河床の重機による帯状耕耘)と普及を行った。 ・アユ産卵場造成:4漁協,計17,515㎡ ・さらに、アユ産卵場造成技術を応用したウグイ等産卵場造成技術開発試験及び指導(各内水面漁協,ウグイ,オйкаワ,フナ・コイ,モツゴ)</p> <p>2 イワシ・サバ類の新規加入予測精度向上研究 ～耳石解析によるイワシ・サバ類稚魚期の成長履歴及び低次生産に対する成長応答解明研究～</p> <p>・マサバにおいては、卵～稚魚期の生き残りが新規資源加入量の判定に重要であり、特に初期成長速度が生き残りに影響をあたえていることが判明した。</p>	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成
	2) 相談業務	<p>A ○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p>随時、漁業者や加工業者の相談やマスコミ、一般県民からの問い合わせに対応した。</p> <p>○数値実績 ・加工技術相談(異物混入等) 86件 ・加工技術相談の他機関紹介 2件 ・加工施設利用 5件 ・魚病、活魚槽付着等相談 27件(海3,内水面24) ・混獲物有効活用(久慈) 1件 ・市場作業軽労化(大洗,久慈) 2件 ・浮袋エア抜き及び神経締め手法 3件 <b>合計126件</b></p> <p>(トピックス) ・栽培漁業協会からヒラメのアクアレオ診断の相談を受け、自前での検査技術の習得が急務と判断し、2月に国の研究機関において技術研修を受け、H29年の種苗生産時の相談に対応できる体制を構築した。</p> <p>(トピックス) ・久慈浜からサヨリ曳網に混獲されるダツ活用の相談を受け、試作品求評や海洋高校との連携を取り、H29に高校の加工開発課題として取り組むこととなった。</p>	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成
	3) 成果の伝達普及・指導業務	<p>A ○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p>① 技術・研究成果の伝達普及</p> <p><b>1. 技術講習会等の開催</b></p> <p>○数値実績 ・沿岸資源談話会:3回(2/24大津,2/27那珂湊,2/21波崎) ・加工技術講習会:1回(9/6大津,凍結生シラス技術講習)</p> <p><b>2. 漁海況情報の発信</b></p> <p>○数値実績 ・漁海況速報:1回/週 ・人工衛星速報及び水産の窓:1回/週 ・フェイスブックによる漁海況等情報発信:148回</p> <p>(トピックス) ・最新の水温情報が欲しいという漁業者要望に対応し、フェイスブックによる水温生データの発信を開始した。現在は水産関連情報も幅広く発信。 (トピックス) ・漁海況速報の余白にまき網漁獲物の体長組成、脂肪含有量や操業状況等の情報を新たに追加した。</p> <p><b>3. 巡回指導・漁業者活動支援</b></p> <p>○数値実績 ・巡回指導:延べ384日・人 ・浜の活力再生プラン(地域浜プラン)指導:16回・地区(8地区×2回)</p> <p>(トピックス) ・地域浜プランの「海の輝き」の取組を広域浜プランの地区連携の取組とすることになったことを受け、海の輝き生産による経営貢献度の分析、製造技術習得、当該技術の守秘等の指導を行った。</p> <p><b>4. 産卵場造成技術の普及・指導</b></p> <p>○数値実績 ・アユ産卵場造成:4漁協,計17,515㎡ ・ウグイ等産卵場造成技術開発及び指導(各内水面漁協,ウグイ,オйкаワ,フナ・コイ,モツゴ) ・ワカサギ人工採卵技術指導 ・シジミ種苗生産指導(洞沼,利根川)</p> <p><b>5. 外来魚対策</b></p> <p>○数値実績 ・浸潤状況調査:6回 ・駆除マニュアルに基づく指導:5回</p>	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)

評価項目(年度実施計画)		研究所等の自己評価		水産試験場 評価委員会評価	
		評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
i) 県民に対して提供する業務	3)成果の伝達普及・指導業務		<p><b>② 漁場環境保全・魚類防疫業務</b></p> <p><b>1. 霧ヶ浦北浦酸欠情報</b> 酸欠の起きやすい7～9月に養殖業者に溶存酸素情報を提供し、斃死被害の未然防止を図った。</p> <p>○数値実績 ・土日祭日を除く毎日(63回)+臨時速報(8回) 合計:71回</p> <p><b>2. 貝毒プランクトンモニタリング調査</b> 麻痺性及び下痢性貝毒の原因プランクトンの検査を実施し、毒化兆候の早期把握に努めた。</p> <p>○数値実績 ・麻痺性13回 ・下痢性13回</p> <p><b>3. 大型クラゲ来遊状況調査</b> 本県沖合のエチゼンクラゲの来遊状況を調査船いばらき丸で調査した。大型クラゲは確認されなかった。</p> <p>○数値実績 ・4航海(9～1月) (トピックス) ・H27.9月に平磯漁港内で酸欠が発生し、畜養中の漁獲物のへい死事故が発生したことを踏まえ、H28.8～9月に酸素情報を発信し(11回)、注意喚起した結果、被害の未然防止を図ることができた。</p> <p><b>③ 衛生・鮮度管理技術指導</b></p> <p><b>1. 衛生管理マニュアルの実施指導</b> ・各産地市場の衛生管理の向上のため講習会等の開催及び相談に対応した。 ・優良衛生品質管理市場の認定を受けた磯崎市場における利用者の意識向上のための講習会の開催を支援した。</p> <p>○数値実績 ・衛生管理マニュアル指導:7市場延べ17回</p> <p><b>2. 水産物安全モニタリング調査</b> ・水産物の安全確保のため、調査船による検体採集、前処理、分析機関への検体送付を行った。 ・調査船採集日数56日、検体数85魚種1,081検体 (トピックス) ・採捕できず検査できなかったメロウド、クロメバル、キツネメバルを調査船あさなぎと漁協協力により確保し、安全性が確認できたことから、3月までに海産魚の規制がすべて解除された。</p>		
	4)漁業無線業務	A	<p>○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p><b>1. 定時放送</b> ・気象発表の海上気象予報や航行警報情報を漁船及びプレジャー船に迅速に提供した。 ・船舶の常陸那珂港への入出港情報を漁船に提供し、操業の安全確保を図った</p> <p>○数値実績 ・気象・航行警報情報提供:10回/日</p> <p><b>2. みなしGM通信</b> ・みなしGM船の出入港、操業、漁況、行動情報などの連絡を行った</p> <p>○数値実績 3回/日</p> <p><b>3. 所属船の緊急事態への対応</b> ・地震・津波や座礁・転落等の緊急時の受信と海上保安部等への通報等に24時間体制で対応した。 ・災害発生時の通信確保のため、遭難緊急周波数や通常の連絡周波数を使用し、県外漁業無線局及び県内漁協海岸局との間で受信感度試験を行った。 ・波崎及び鹿島海難事故情報伝達訓練の通信確認等に協力した。</p>	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成
	5)外部人材育成	A	<p>○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p>出前講座、研修会の開催、大学生の受け入れ等により外部人材育成に努めた。</p> <p>○数値実績 ・親子で学ぶ水産・海洋教室:1回(7/25～27, 23組49名) ・加工体験講習会:1回(1/30カマボコ製造) ・種苗放流体験講習会:2回(11/25シジミ、3/4サケ) ・海洋高校出前講座:1回(3/15ヒラメ栽培漁業と生態) ・茨大卒業生への論文指導(H27共同研究課題「アメリカナマズの年齢と成長」の学会論文) ・インターンシップ2名受け入れ(筑波大学生:8/1～12, 茨城大学生9/15～30) ・きたうら水辺ガイド養成講座(10/20)</p>	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)		水産試験場	
評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価
	評価	計画達成の状況	評価 評価における特記事項
i) 県民に対して提供する業務	6) 知的財産の取得・活用	A ○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成 <b>1. 事例収集</b> ・研究成果を知的財産として適切に保護するため、3/16に科学技術振興課より入手した知的財産に係る資料を場員全員に配付して情報共有した。 <b>2. 製造技術の秘密保持対応</b> ・生食用凍結シラス製造技術は、特許ではなく営業秘密の情報管理を行っており、その体制を関係漁協、漁業者間で確認した。 ・茨城県生シラス生産者協議会:1回(3/8)	A ○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成
	7) 広報・普及啓発	AA ○質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現 <b>1. 情報誌の発行、調査情報の広報</b> ○数値実績 ・沿岸資源談話会(再掲): <b>3回</b> ・茨城水試研究報告:1回(4件) ・漁海況速報(再掲):1回/週 ・人工衛星速報及び水産の窓(再掲):1回/週 ・ワカサギ情報: <b>4回</b> (6/29, 7/7, 7/13, 7/21) ・アユ遡上情報:H28春季14回(2/24~5/27, うち <b>H28度8回</b> ), H29春季(3/15~, <b>H28度2回</b> ) <b>計10回</b> ・アユ解禁日情報:1回 ・茨城水試研究報告以外の研究報告:7件 ・全国研究発表大会等での発表実績:17件 ・地魚レシピの追加公表:24品 ・主要魚種の生態と資源リニューアル:21種  (トピックス) ・第2期中期運営計画(H28~32)の概要版を印刷物として作成し、HPをあまり利用しない、漁業者等へ広報資料として配布した。  (トピックス) ・「地魚レシピ集(H28.3.15公表, H28に24品追加, 現在132品)」の取組がH28に創設された県農林水産部パブリシティ優良事例として表彰された。また、NHKいば6とニュース845で放映され、本県漁業のPRに寄与した。  (トピックス) ・主要魚種21種について、生態と資源を行政や県民、メディアの問合せに迅速、的確に対応できるよう資料作成した。併せて競合先の分析やレシピ追加により情報補完した。この取組はH28目標チャレンジの県民サービス・事務改善の部で知事表彰を受けた。 <b>2. 視察者の受入れ</b> ・科学技術振興課4名(4/20) ・人事課、農業政策課7名(5/23) ・文部科学省2名(8/8) ・茨城大学OB7名(11/18) ・水戸南高社会科教諭6名(2/15) ほか <b>3. 各種イベントへの参加</b> ○数値実績 ・移動水産試験場: <b>6回</b> 大洗魚市場ホッキまつり(6/12) 大洗シラス祭り(9/25) みなと産業祭(10/16) ひたちなか産業交流フェア(11/5~6) 青少年科学の祭典日立大会(11/27) ・パネル展示:2回 茨城県立図書館ギャラリー(9/22~10/2) 県庁2F県政広報コーナー(1/6~31)	AA ○質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現

【様式7】整理表(項目別評価)		水産試験場	
評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価
	評価	計画達成の状況	評価における特記事項
ii) 業務の質的向上・効率化のために実施する方策	1) 全体マネジメント	<p>AA</p> <p>○質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現</p> <p><b>1. 水試業務全体のマネジメント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例部長会(本場1回/週、支場合同1回/月)等で場全体の業務の進捗管理や課題の共有を図った。</li> <li>・調査船や場内施設、機器等を適切に維持管理した。</li> </ul> <p>(トピックス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いばらき丸の修繕ドックを造船所に上架せず、那珂湊漁港に係留した状態で、可能な限り自主整備により実施し、外注は必要最小限にする初の試みにより1,000万円以上の経費を節減し、必要な整備を完了させた。</li> </ul> <p><b>2. 研究活動のマネジメント</b></p> <p><b>(1) 研究等の評価</b></p> <p>○数値実績</p> <p>3回 他の場内ゼミ:66回 計69回</p> <p><b>(2) 評価委員会の開催</b></p> <p>○数値実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部評価委員会:2回(12月、3月)</li> <li>・機関評価委員会:1回(7月)</li> </ul> <p>(トピックス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「親子で学ぶ水産・海洋教室」について、応募者不足が課題となっていることから、内部評価委員会の議題とし、PDCAによる事務改善対策を講じた。</li> </ul> <p><b>(3) 行政との情報共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産関係場所長会議等での行政との情報共有:8回 水産関係場所長会議2回 栽培漁業基本計画策定会議4回 ワカサギ研究ロードマップ打合せ2回</li> <li>・その他の情報共有 市場調査情報共有 随時 主要魚種の生態と現(21種)の作成・情報共有 第7期水質保全計画の策定 世界湖沼会議の検討体制等の調整 第3期森林湖沼環境税事業の新規事業の検討</li> </ul>	<p>AA</p> <p>○質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現</p>
	2) 県民ニーズの把握	<p>A</p> <p>○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p><b>1. 研究ニーズの把握と研究課題の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及員の巡回指導や各種会議に出席し、ニーズの把握に努めるとともに要望等に対応した。</li> </ul> <p>○数値実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸資源談話会:3回(再掲)</li> <li>・巡回指導:延べ384日・人(再掲)</li> <li>・水産関係場所長会議等での行政との情報共有:8回(再掲)</li> <li>・水産試験場主催の会議、講習会等:9回</li> <li>・水産関係団体等の会議への参加:227回</li> <li>・水産関連行事への参加:40回</li> </ul> <p><b>2. 漁業者等の要望への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の水温生情報が欲しいという漁業者要望に対応し、フェイスブックによる水温生データ等の発信を開始した(再掲)。</li> </ul>	<p>A</p> <p>○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p>

【様式7】整理表(項目別評価)

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		水産試験場 評価委員会評価																																																	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項																																																
ii) 業務の質的向上・効率化のために実施する方策	A	<p>○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p><b>共同研究・連携の推進</b> 全国場長会や国、大学、他県の研究機関が参加する会議等を通じて情報収集や技術習得に努めた。 試験研究の高度化、効率化のため、大学や水研等との共同研究を実施した。</p> <p>○数値実績 ・共同研究課題数: <b>8課題</b></p> <table border="1"> <caption>共同研究実施一覧(平成28年度)</caption> <thead> <tr> <th>No</th> <th>研究課題名</th> <th>相手先</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マイワシの脂肪簡易測定技術開発に関する研究</td> <td>(一社) 漁業情報サービスセンター</td> <td>H26.7.16~H29.3.31</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>チョウセンハマグリの子実体形成に関する研究</td> <td>東京大学海洋研究所</td> <td>H25.5.17~H30.3.31</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>霞ヶ浦由来のプロバイオティクス乳酸菌等を用いたコイ養殖技術に関する試験研究</td> <td>筑波大学</td> <td>H27.5.1~H30.3.31</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>平磯の豊かな海辺の生き物を街おこしに活用するための基礎研究</td> <td>平中学区明るい地域づくりの愛市民会議</td> <td>H28.6.18~H29.3.31</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>海産着床貝を用いたアラメ藻場再生技術の開発に関する共同研究</td> <td>鹿嶋研</td> <td>H27.6.5~H30.3.31</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アワビ漁場・資源の有効利用に関する共同研究</td> <td>那珂湊漁協</td> <td>H23.6.20~H31.3.31</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>鹿島灘における物理環境と水産生物動態に関する研究</td> <td>(国研) 港湾空港技術研究所 (国研) 水産総合研究センター 水産工学研究所 (国法) 筑波大学</td> <td>H23.3.30~H33.3.31</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>霞ヶ浦北浦におけるチャネルキャットフィッシュの年齢と成長に関する研究</td> <td>茨城大学</td> <td>H26.12.16~H30.3.31</td> </tr> </tbody> </table> <p>・県立食品加工関係機関連絡会議: <b>1回</b> ・水族館への展示用生物提供: <b>16回</b> ・霞ヶ浦環境科学センターとの湖沼観測連携: <b>12回</b> ・水族館の大型展示水槽を借用したマイワシの行動把握試験: <b>1回(3月)</b></p>	No	研究課題名	相手先	期間	1	マイワシの脂肪簡易測定技術開発に関する研究	(一社) 漁業情報サービスセンター	H26.7.16~H29.3.31	2	チョウセンハマグリの子実体形成に関する研究	東京大学海洋研究所	H25.5.17~H30.3.31	3	霞ヶ浦由来のプロバイオティクス乳酸菌等を用いたコイ養殖技術に関する試験研究	筑波大学	H27.5.1~H30.3.31	4	平磯の豊かな海辺の生き物を街おこしに活用するための基礎研究	平中学区明るい地域づくりの愛市民会議	H28.6.18~H29.3.31	5	海産着床貝を用いたアラメ藻場再生技術の開発に関する共同研究	鹿嶋研	H27.6.5~H30.3.31	6	アワビ漁場・資源の有効利用に関する共同研究	那珂湊漁協	H23.6.20~H31.3.31	7	鹿島灘における物理環境と水産生物動態に関する研究	(国研) 港湾空港技術研究所 (国研) 水産総合研究センター 水産工学研究所 (国法) 筑波大学	H23.3.30~H33.3.31	8	霞ヶ浦北浦におけるチャネルキャットフィッシュの年齢と成長に関する研究	茨城大学	H26.12.16~H30.3.31	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成												
	No	研究課題名	相手先	期間																																																
1	マイワシの脂肪簡易測定技術開発に関する研究	(一社) 漁業情報サービスセンター	H26.7.16~H29.3.31																																																	
2	チョウセンハマグリの子実体形成に関する研究	東京大学海洋研究所	H25.5.17~H30.3.31																																																	
3	霞ヶ浦由来のプロバイオティクス乳酸菌等を用いたコイ養殖技術に関する試験研究	筑波大学	H27.5.1~H30.3.31																																																	
4	平磯の豊かな海辺の生き物を街おこしに活用するための基礎研究	平中学区明るい地域づくりの愛市民会議	H28.6.18~H29.3.31																																																	
5	海産着床貝を用いたアラメ藻場再生技術の開発に関する共同研究	鹿嶋研	H27.6.5~H30.3.31																																																	
6	アワビ漁場・資源の有効利用に関する共同研究	那珂湊漁協	H23.6.20~H31.3.31																																																	
7	鹿島灘における物理環境と水産生物動態に関する研究	(国研) 港湾空港技術研究所 (国研) 水産総合研究センター 水産工学研究所 (国法) 筑波大学	H23.3.30~H33.3.31																																																	
8	霞ヶ浦北浦におけるチャネルキャットフィッシュの年齢と成長に関する研究	茨城大学	H26.12.16~H30.3.31																																																	
4) 外部資金の獲得方針	A	<p>○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成</p> <p>・国庫補助, 受託研究件数: <b>11件</b></p> <table border="1"> <caption>主な外部資金活用状況 予算額(千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種別</th> <th>研究課題名</th> <th>予算額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">国庫補助</td> <td rowspan="5">特電</td> <td>耳石解析によるイワシ・サバ類稚魚期の成長履歴等解明研究</td> <td>11,193</td> </tr> <tr> <td>茨城県産アワビの資源量把握手法に関する研究</td> <td>881</td> </tr> <tr> <td>ゲンゴロウフナ性転換雄作出技術開発に関する研究</td> <td>4,855</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,929</td> </tr> <tr> <td>水産庁</td> <td>ワカサギ資源変動モデルの検証・運用研究</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">受託</td> <td>計</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td>大型クラゲ出現調査</td> <td>466</td> </tr> <tr> <td>いばらきの沿岸域漁船漁業ビジネスモデル実証事業</td> <td>2,231</td> </tr> <tr> <td>我が国周辺漁業資源調査</td> <td>26,781</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29,478</td> </tr> <tr> <td colspan="3">計</td> <td>47,007</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">国庫補助</td> <td rowspan="5">特電</td> <td>水産試験場研究機器整備事業</td> <td>1,014</td> </tr> <tr> <td>水産試験場研究設備維持管理事業</td> <td>1,079</td> </tr> <tr> <td>船舶検査費</td> <td>1,320</td> </tr> <tr> <td>船舶施設整備費</td> <td>12,907</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,320</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>63,327</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 補助率: 特電10/10, 水産庁 1/2</p>	区分	種別	研究課題名	予算額(千円)	国庫補助	特電	耳石解析によるイワシ・サバ類稚魚期の成長履歴等解明研究	11,193	茨城県産アワビの資源量把握手法に関する研究	881	ゲンゴロウフナ性転換雄作出技術開発に関する研究	4,855	計	16,929	水産庁	ワカサギ資源変動モデルの検証・運用研究	600	受託	計	600	大型クラゲ出現調査	466	いばらきの沿岸域漁船漁業ビジネスモデル実証事業	2,231	我が国周辺漁業資源調査	26,781	計	29,478	計			47,007	国庫補助	特電	水産試験場研究機器整備事業	1,014	水産試験場研究設備維持管理事業	1,079	船舶検査費	1,320	船舶施設整備費	12,907	計	16,320	合計			63,327	A	○質・量の両面において概ね平成28年度計画を達成
区分	種別	研究課題名	予算額(千円)																																																	
国庫補助	特電	耳石解析によるイワシ・サバ類稚魚期の成長履歴等解明研究	11,193																																																	
		茨城県産アワビの資源量把握手法に関する研究	881																																																	
		ゲンゴロウフナ性転換雄作出技術開発に関する研究	4,855																																																	
		計	16,929																																																	
		水産庁	ワカサギ資源変動モデルの検証・運用研究	600																																																
	受託	計	600																																																	
		大型クラゲ出現調査	466																																																	
		いばらきの沿岸域漁船漁業ビジネスモデル実証事業	2,231																																																	
		我が国周辺漁業資源調査	26,781																																																	
		計	29,478																																																	
計			47,007																																																	
国庫補助	特電	水産試験場研究機器整備事業	1,014																																																	
		水産試験場研究設備維持管理事業	1,079																																																	
		船舶検査費	1,320																																																	
		船舶施設整備費	12,907																																																	
		計	16,320																																																	
合計			63,327																																																	
5) 内部人材育成	AA	<p>○質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現</p> <p>研究員・職員の資質及び能力の向上を図るため、ゼミや各種研修会等に参加した。</p> <p>○数値実績 ・場内ゼミ: <b>66回</b> (一般ゼミ30回, プチゼミ36回) ・研修会: <b>17人以上</b> (技術研修内訳) 数理統計基礎編・応用編(11月, 農林水産技術会議)2人 海況解析技術研修(6月, 東北水研)1人 貝毒分析技術研修(10月, 中央水研)1人 小型浮魚類年齢査定研修(12月, 中央水研)1人 水産業普及指導員研修(9, 11月, 水産庁ほか)3人 ヒラメアクレオ診断技術研修(2月, 増養殖研究所)1人 (職員職務能力・資質向上研修) メンタルヘルス研修(5月, 県庁)1人 ハラスメント研修(5月, 県庁)1人 近大に学ぶ地域活性化施策企画立案研修(10月, 県庁)1人 情報セキュリティ研修(5, 2, 3月, 県庁)3人 ひたちなか署による交通安全研修(2回, 水試)場員 仕事に活かす断捨離セミナー(2月, 県庁)1人 機械整備・安全研修(7月, 勝田JR車両センター)船員複数 船舶司厨業務に係る鹿島丸乗船研修(9月, 茨城沖)船員1人</p> <p>(トピックス) ・研究を進める上での悩みの相談, アイデア出し, 情報共有等を気軽に行える場として, 毎週1回, 30分間のプチゼミを開始した。場内の活性化や融和を図る場として非常に役立っている。</p>	AA	○質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現																																																